一誌一句（受贈誌６・７月号他より）

米田　透　抄出

紙は美濃筆は熊野や春灯　（和　）　名和　永山

葉柳やむかし銀座に点灯夫　（水　明）　山本鬼之介

銀河系字ニッポンのしゃぼん玉　（遊　牧）　塩野谷　仁

秋刀魚の腸旨き昭和の生れなり　（対　岸）　今瀬　剛一

行く春の文焼いてゐる尼僧かな　（年　輪）　坂口　緑志

飛魚の手裏剣のごと飛びにけり　（風の道）　大高　霧海

春雷や円空仏の鉈の痕　（紫　）　山﨑　十生

一羽またこぼれ落ちさう燕の子　（風　港）　中川　雅雪

空豆や水都の夜景ふかまりぬ　（秋　）　佐怒賀正美

花菖蒲青磁の壺に生けにけり　（あかざ）　池田恵美子